

安全推進室だより Vol22

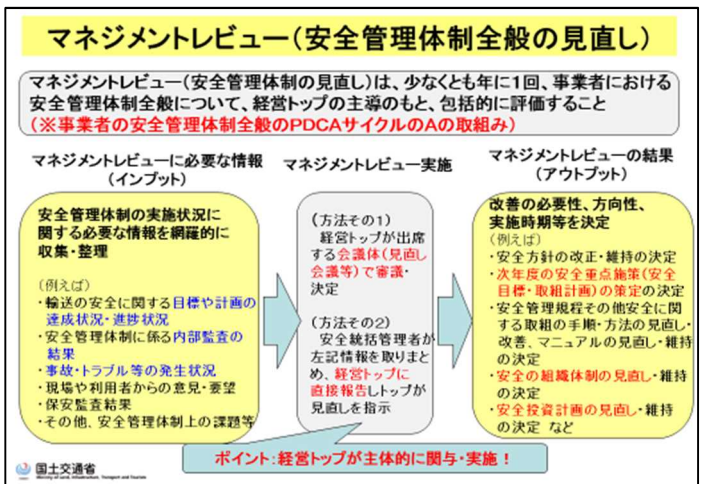
マネジメントレビューとは
～1年間の取組を通じ、より効果的な活動へ～

年間を通じた各種取組の進捗や結果を見ると、自社の脆弱性や事故の傾向が見えてきます。これらを次年度に向けどのように継続・改善していくのが課題となってきますが、このマネジメントレビューは安全管理体制のPDCAサイクルにおける”A段階”であり、次年度の取組へつなげる重要な位置づけとなります。

そのためには、安全管理体制に関する情報（インプット）を数多く収集・整理し、改善の必要性和方向性、必要となる資源等について決定するために、一年間の“振り返り”（マネジメントレビュー）を行うことが必要となってきます。

右図では、次年度の重点施策を含む各種取組（アウトプット）までの流れを例示したのですが、他にもインプット情報としては、

- ・社員・職員への安全方針の浸透・定着の状況
- ・情報伝達及びコミュニケーションの確保の状況
- ・是正措置及び予防措置の実施状況
- ・安全管理体制の実施状況及び改善の必要の有無
- ・改善提案、過去のレビューの結果に対する対応状況
- ・その他必要と判断した情報 など考えられます。



マネジメントレビューのポイント

<ポイント>

- 実施時期は?…予算との連動性**
取組みを年度計画している場合、「当該年度の取組み状況を把握」できて、「次年度の予算計画に取組みの経費を計上」できる時期が望ましい。
例示: 毎年2月に予算計画を立てるならば、第3四半期までの取組みを総括できる1月にマネジメントレビュー実施
- 経営トップに手交する資料…見える化と理解しやすさに配慮**
 - ・見える化…取組みの総括に関する資料は、可能な限り数値化。
 - ・理解のしやすさ…現状、問題点、改善方法、来年度の施策に至る流れを記載
 - ・統計データ…数字の羅列は読まれない。簡単な概要(サマリー)を添えること。

●一ロコメント

1. マネジメントレビューのPDCAが回り出したら…。
2. 年度毎に実施した取組みの年表を作成
3. 過去に実施した取組みと事故等との推移を比較
4. 取組みの有効性を長期的視点で検証するために有効

また、マネジメントレビューを実施した際には、将来的にも内容が再確認できるように記録を作成し、保存することも大切です。取組み方法等の見直しも行いますので、その実施記録を残すことで、例えば、同じような傾向の事故が再発したときに対策を見返すことにより、有効な再発防止策を策定することが可能となります。そのためにも、単に取組を実施した内容だけを記録するのではなく、その経緯や効果についても記録することが大切です。

マネジメントレビューは、事業者全体の安全管理に係る取組を総括し、事後の取組計画や体制の方向性などを決定する趣旨から、経営トップ自らが主体的に関与し、実施していくことが求められます。

マネジメントレビューの実施方法は、自社の安全管理の実態に見合ったものとし、会議体で実施したり、安全統括管理者が取りまとめ直接経営トップに報告してもいいと思います。(左図参照)

実施時期としては一般的には年に1回～2回程度、事故の発生件数や、各種取組の進捗状況や内部監査の結果などを活用できる時期に実施します。

安全投資・施策の決定後にマネジメントレビューを実施すると、次年度の取組との連動性が失われることがありますので、自社の課題に的確に対応した投資を行うために、安全投資計画を策定する前に実施するのがベターだと考えます。

